

次の大震災に備えよう

— 経済同友会・同友クラブ新世紀懇談会で考える —

開倫塾

塾長 林明夫

Q：「次の大震災」とは何ですか。

A：(1)「南海トラフ大地震。最悪の場合は震度7の揺れは東海地方から四国、九州まで10県153市町村に及びます。国民の半数が被災者になる可能性がある大災害です。内閣府の想定では、最悪で死者32万3000人の関連死を含めるともっと膨れ上がるかもしれません。阪神・淡路大震災では日本の人口の訳5%の人たちが被害に遭いました。関東大震災も被害は関東限定でした。国民の半分が被害に遭うかもしれないというのは尋常ではありません。この地震は『いつか来るかも知れない』のではなく『必ず来る』のです。首都圏を襲う地震も歴史上繰り返されており、懸念されます。」

(2)以上は、名古屋大学教授で減災連携研究センター長である福和信夫先生著「次の震災について本当のことを話してみよう」時事通信社、2017年11月30日刊P2～3、「まえがき」からの引用です。

(3)福和先生からは、2019年4月4日(木)に公益社団法人経済同友会(東京)の同友クラブ新世紀懇談会で同テーマでの講演をお聞きし、意見交換をさせていただき、事の重大さを再認識。以来、先生の御著書を読ませていただき、また自分なりの調査・研究をスタートしたところです。

Q：東京や大阪はどうなるのでしょうか。

A：(1)「一方で、東京や大阪も軟弱な地盤の低地に都市を広げ、異常な過密が進んでいます。そこに林立する超高層ビルの安全性は十分の検証されていません。スイスの再保険会社が公表した自然災害危険度が高い都市ランキングで世界ワースト1位は『東京・横浜』でした。

(2)戦後40年、大都市での大きな地震がなく、日本は経済成長を遂げました。この間、電気、燃料、水道、通信網が高度に発展し、それを基盤にした社会に日本人は生きてます。次の巨大な震源はそれらをすべてストップさせて安易に回復できなという過酷な事態をもたらす可能性があります。

(3)こうして事態は多くの人にとって『見たくないもの』です。私たちは『誰かがうまくやってくれる』と見たくないことに目をつぶり、人任せにして日々を過ごしています。」*以上も同著P3～4、「はしがき」より引用。

Q：「見たくないもの」を見、「最悪の事態」を防ぐために何をしたらよいと考えますか。

A：(1)まずは、大震災における減災研究の第一人者である福和の部を先生の本書と、同著「必ず

くる震災で日本を終わられないために」時事通信社、2019年3月20日刊の2冊を真剣に読み、理解することです。

(2)その上で、他人事ではなく、自分自身のこと、自分の家族・友人、自分の学習塾・予備校・学校で学ぶ子どもたち、保護者・地域の方、ビジネスパートナー、働く皆様のこととして考えること、地域や自治体、日本の将来、子供たちの将来のこととして考える。

(3)よく考えた上で、関係する方々を十分に話し合いながら、行うべきことを明確にして、1つ1つ確実にを行う以外にはないと考えます。

Q：「事業継続計画(BCP、Business Continuity Plan ビジネス・コンティニューティイー・プラン)」も見直したほうがよいのでしょうか。

A：(1)「事業の後継者をどう選び、どう育てるか」という意味での「事業継続計画」も大切ですが、同じように、「南海トラフ大地震」などの大規模自然災害発生時の「事業継続計画」の策定も大切です。この2つは、同時並行して行うべきと考えます。

(2)新学年に入りましたので、非常時の「緊急連絡体制」をすべて見直し、即稼働可能なものにつくり変える。何回か「練習」をし、不具合を発見修正することも大切です。

(3)建物やパソコンも含めすべての設備が、南海トラフ級の大地震に耐えられるか否か、全面点検をすることも大事。非常時に入出金などの経理処理をどうするかも考える。あらゆることを想定し、シュミレーションを組むことも必須です。

Q：行うことが相当ありそうですね。

A：(1)災害訓練、救命訓練は年間計画の中に入れ、早日、早日に実施すること。

(2)歯科を含めた定期健康診断を全員が受診し、再検査や加療が必要な場合には一日も早く必要な措置をスタート。健康第一。健康を維持して、何があっても大丈夫な強靱な体力を目指すことです。

(3)トップ直結で非常時対応のプロジェクトも早急に発足。非常時の判断、指揮・命令、責任の所在を明確にし、周知・徹底を図ることが何より求められます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も読めば必ずお役に立つと考える本を御紹介したいと思います。

(1)1冊目は、波頭亮著「論理的思考のコアスキル」ちくま新書、筑摩書房2019年4月10日刊です。論理的思考能力とは何か、どう育てたらよいかのわかりやすく、具体的に書いてあります。来年度以降、私立中入試や高校入試、大学入試に出題される可能性がもっとも高い作品の1つです。本書を読了してから、同著「思考・論理・分析—『正しく考え、正しくわかること』の理論と実践—」産業能率大学出版部、2004年7月28日刊をお読みになると、論理的思考とは何かがよくおわかりになります。波頭氏の作品は、すべて、読めば読むほど頭がクリアになります。

(2)2冊目は、旅行作家協会委員で日進レンタカー創業者・会長の富田純明氏著「私が歩いたユネスコ世界遺産 555 選」KK ロングセラーズ、2019年3月3日刊です。富田氏は知る人ぞ知る旅行家で、40年間で旅行回数 200 回以上、世界 166 か国以上を訪問した著者が写真で語る

作品です。自分で計画し自分で手配し、自由に巡る旅をしようがテーマです。同氏著「50歳から個人で行くユネスコ世界遺産の旅」KKロングセラーズ2017年2月15日刊と併読ください。世界一周の具体的方法がよくわかります。なお、富田氏は私と同様、経済同友会の同友クラブ・新世紀懇談会の理事・世話人です。

- (3)3冊目は、元NASA研究の小谷太郎氏著「宇宙はどこまでわかっているのか」幻冬舎新書、幻冬舎、2019年1月30日刊です。本年4月10日に、地球サイズの震波望遠鏡を用いてブラックホールの撮影に成功、宇宙への関心が高まっています。宇宙の研究は物理学の研究ですが、21世紀は分子生物等の圧倒的な発展の時代です。子供たちに大急ぎで分子生物学を習わせようという著者の提言は興味が尽きません。
- (4)4冊目は、東京大学法学部で政治史を教えた岡義武先生著「国際政治史」岩波現代文庫、岩波書店2009年9月16日刊です。本年2月15日刊の同著「明治政治史(上)」、3月15日刊の同著「明治政治史(下)」、4月16日刊の同著「転換期の大正」、いずれも岩波文庫の3冊を読了した後に、明治維新・明治時代・大正時代の世界の政治の動きを学ぶのには絶好の作品です。ここにご紹介した岡先生の4冊は第一級の「通史」、名著と言えます。すべて、東京大学法学部での講義をふまえ、学者生命をかけて執筆・整理した遺作です。歴史や公民・政治経済を担当する先生の必読書です。難関校受験生には絶好のテキストと確信します。本文の理解が深まる「注」を含め、ご精読ください。高校の歴史教科書や鳥海靖著「もう一度読む山川日本近代史」山川出版社、2013年4月30日刊と、木谷勤著「もういちど読む山川世界現代史」山川出版社、2015年3月30日刊の2冊を、これら4冊の整理用に併読することも超おすすめです。
- (5)5冊目は、中尾隆一郎著「最高の結果を出すKPIマネジメント」フォレスト出版、2018年7月2日刊です。KPIとはKey Performance Indicatorの略。KPIに関する最もわかりやすい著作です。必ずご参考になります。
- (6)6冊目は、私の尊敬する哲学者で、東京大学名誉教授、松永澄夫先生の最新作「めんどりクウちゃんの大そうどう」文芸社、2019年4月15日刊です。読めば必ず心がほっこりする本です。瑞々しい心でいれば、日々の些事がそれぞれ大事件として感じ取られることを教えてくれる読み物。先生の名著「価値・意味・秩序」2014年4月25日、「経験のエレメント」2015年10月31日、「感情と意味世界」2016年7月15日いずれも東信堂刊などを、絵本にするとうなるのではと私は考えます。是非、ご一読を。

2019年4月30日（火）林明夫記